

はじめに

日頃より市民の皆様をはじめ関係者の方々には、豊田市矢作川研究所の調査研究ならびに諸活動に対し、多大なるご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。当研究所の研究成果や矢作川を題材に研究された研究者の方々から投稿頂いた原稿に基づき、所報「矢作川研究 No. 29」を発刊しました。ご一読頂き、多くの皆様に活用して頂くともにご意見等頂ければ幸いです。

「矢作川研究」は、矢作川流域に関する記事や出来事を広く掲載していますが、今号より貴重なデータや解析・考察などがなされた記事を示す「調査・研究」というカテゴリーを設けました。このカテゴリーの記事は最初のページ左上に「調査・研究」と表記しています。今後とも、より多くの方のご投稿をお待ちしております。

当研究所は、「豊富な水量の維持と良好な水質の保全」と「人々の生活にうるおいやゆとりを与える河川環境の維持と創造」を目指して1994年に設立され、2024年は創立30年の節目の年となりました。この間、矢作川に関わる農業・漁業団体、愛護活動などを実践する市民団体、研究機関、行政などと連携を深め、矢作川流域に関わる様々な課題の原因を科学的に探りその解決のための提言や広報活動を行うなど、地域に根ざした活動を展開してきました。

手前味噌で恐縮ですが、こうした活動が認められ、昨年の「第26回日本水大賞」において「環境大臣賞」を受賞しました。受賞理由として「市が河川環境を中心とした研究組織を立ち上げ、市民活動と共に30年にわたり活発な活動を継続していることは、極めて珍しく、極めて重要である。河川は個々に違った性質を有しており、ひとつの流域を対象に研究を重ね、その成果を政策に活かす取り組みは、全国の模範となっていくべき活動である」と、誠に荣誉ある評価を頂きました。このことは、よくよく考えてみればひとえに30年の間、当研究所に関わり、支えて頂いたあらゆるの方々のおかげであり、その皆様に対して与えられた賞だと思っています。

今後も地域に根ざした研究所として、矢作川流域の現状と流域住民のニーズを十分に把握し、科学的なデータに基づく成果を提供して、関係の皆様とともにより良い河川環境の創造に取り組んでいく所存であります。引き続き当研究所の活動に対し、皆様からのご支援、ご協力を頂きますようよろしくお願い申し上げます。

令和7年1月

豊田市矢作川研究所 所長
宮田 昌和

～今号から、内容の質が学術雑誌に準ずる記事を
「調査・研究」として区分します～

- ・「調査・研究」とは、「データに新規性・貴重性がある、データの客観性が統計解析等により担保されていると著者および編集委員会が判断した記事」とします。
- ・タイトルの左上に「調査・研究」と表記しています。